

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版  
2020年度 授業実践事例

国語科 中学校第2学年

「走れメロス」を読む—問い作りを中心にした実践—

授業者 重永 和馬

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校



## 中学校 国語科 学習指導案

指導者 重永 和馬

- 日時** 令和2年2月4日(金) 第1限 8:40~9:30
- 場所** 第3研修室
- 学年・組** 中学校2年B組44人(男子23人 女子21人)
- 単元** 「走れメロス」を読む ―問い作りを中心にした実践―  
「走れメロス」『中学校 国語 2』(学校図書)
- 目標**
1. 文章を読み深め、考えを深めるために、問いを作って文章を読もうとする。  
(関心・意欲・態度)
  2. 問いを作り解決する中で、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈する。(読むこと)
  3. 話や文章の構成や展開について理解を深める。(言語についての知識・理解・技能)

### 指導計画 (全8時間)

- 第一次 「走れメロス」を通読し、はじめの問いを作る。(2時間)
- 第二次 問いの解決を図りながら、「走れメロス」を読む。(4時間)
- 第三次 「走れメロス」を読み終えて、まとめの問いを作る。(2時間) (本時 1/2)

### 授業について

本校国語科は育成をめざす生徒像として「テキストの表現を言語事項や背景を踏まえて解釈し、既有的知識、実生活での体験、読書等の体験と結びつけて考えている」、「自己の考えを言葉で表現し、他者と交流することで多様な視点を獲得し柔軟に考えようとしている」、「自己の学びを振り返り、次なる課題を見出し解決しようとする意欲を持つ」を掲げている。ここには、知識は与えられるものではなく、他の人と協同しつくり上げていくものだという知識観・学習観がある。また、教材文は内容理解の対象にとどまらず、疑問、検討、分析、推論などの思考の対象になるものだという教材観がある。私はこのような知識観・学習観・教材観にもとづき、生徒の問題意識を授業の中心に据えた授業、具体的には生徒が問いを作り、解決を図ることが中心の授業を実践するように努めている。このような授業を志す理由は、問いを作り、解決を図る授業過程が、生徒が我がこととして文章の内容をとらえ、能動的に学ぶことにつながるからである。また、問いを作ることが読む力の育成に資するからである。漠然と文章を読んだ場合、内容を正しく読解することにはなるが、考えることにはなりにくい。問いを持つことは、深く読み考えるきっかけになる。

「走れメロス」はメロス、セリヌンティウス、ディオニスに注目しつつ読むと、信頼関係や友情関係の強さが悪に勝利する文章と読むことができる。このような教材研究にもとづいた授業実践も行われている。しかし、フィロストラトスや少女といった別の要素に注目しながら読むと、冷静な理性と熱狂する身体が対決する文章と読むことが可能になる。「走れメロス」は、目に付きやすい要素に注目して読むときと、目に付きにくい要素に注目して読むときとで、読みが変わる作品だと言える。この点に「走れメロス」を読み深める契機がある。単元導入時に作るはじめの問いは、生徒にとって目に付きやすい要素に関わる問いになる。単元展開時は、問いの解決を図ることで、読みを深める。同時に、注目していない要素にも目を向けるよう促す。このことにより、単元終結時は、導入時には注目していなかった要素にも注目して、まとめの問いを作ることができるようになる。また一連の過程を通じて、教材文と自分との関係はより近いものになり、我がこととして教材文を受けとめ、まとめの問いを作ることができるようになる。この一連の授業過程で、生徒が「走れメロス」を主体的に、深く読むことが可能になると考えている。

題 目 「走れメロス」を読む ―問い作りを中心にした実践―

本時の目標

1. 「走れメロス」の授業中の読解をふまえて、まとめの問いを作る。
2. 問いを作る中で、登場人物の言動の意味などについて考える。
3. 話や文章の構成や展開について理解を深める。

本時の評価規準（観点／方法）

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解・技能
・「走れメロス」の授業中の読解をふまえながら、まとめの問いを作ろうとしている。(観察・記述の確認)	・問いを作る中で、初読の段階では注目していなかった登場人物の言動の意味などについて考えている。(観察・記述の確認)	・話や文章の構成や展開について理解を深めている。(観察・記述の確認)

本時の学習指導過程

学習内容	指導上の留意点・評価	評価の観点と方法
<p>〈導入〉</p> <p>・前時と本時の内容の確認。</p> <p>〈展開〉</p> <p>1.まとめの問いを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 10px auto; text-align: center;">見える</div> <p>2.再読しながら、まとめの問いについて考える（ペア作業）。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 10px auto; text-align: center;">感情移入する 読み取る</div> <p>〈まとめ〉</p> <p>・次時の内容の確認。</p>	<p>・「走れメロス」を読み終えて、感想を書いたことを確認する。</p> <p>・授業を通じて気づいた新たな要素と、文章と自分の接点について、考えさせる。</p> <p>・発表させる。</p> <p>・ワークシートに記入させる。</p> <p>・内容、表現、作者、作品からの発展の各観点に分類して書かせる。</p> <p>・その中でも、特に文章を読み直して考えたい問いを一つ選び、その理由を書かせる。</p> <p>・発表させる。</p> <p>・ペアを作って、教材文を再読し、相手のまとめの問いについて考えたことを書かせる。</p> <p>・お互いに報告し合わせる。</p> <p>・発表させる。</p> <p>・クラスのまとめの問い一覧を読むことを確認する。</p>	<p>・関心・意欲・態度（観察・記述の確認）</p> <p>・読む能力、知識・理解・技能（観察・記述の確認）</p>
備考		

この文章を読んで、何を学んだ？ 何に気づかされた？

文章を読んで、新たに気づいた要素をふまえて問いを作ろう。

文章を読んで、「この文章の問題は、自身自身にも重なる問題だな」という問題をもたえて問いを作ろう。

一文の疑問形で作ろう。

次の言葉を用いるのも一つの方法。

いつ・どこで・誰が誰に・何を・なぜ

などのために、どうやって  
実際に、～の長短は、～は本当か  
もしも～なら、自分なら～

内容…文章に描かれている世界や内容に関すること

表現…文章の構成や言葉づかいに関すること

作者…文章を書いた作者・筆者に関すること

作品からの発展…文章の世界や内容の発展  
現実世界との関連に関すること

理由を書く時に、次の学習用語を用いて書くこと。

【文学の場合】

設定(時・場・人)・中心人物・心情・性格・葛藤・変化・対比・事件・伏線・クライマックス・構成(すじ)・場面・視点・描写・比喩・象徴・擬音語・擬態語・倒置・強調・省略・文体・作者・主題・意図・読者(私たち)・現実世界・自分

【説明文・評論文の場合】

構成・順序・具体例・事実・根拠・理由・論理・一般化・反論・強調・文体・図や表・段落・対比・共通点・総合的・推理・仮説・筆者・結論・意見・問題提起・意図・説得力・読者(私たち)・現実世界・自分

文学と説明文・評論文を混ぜても、もちろん大丈夫

自分の考えを書いてあげよう。そう考える理由も合わせて書くこと。

1、文章を読み終えて、考えること・思うことを書くこと。

文章を読んで、勇者について考えが深まった。メロスは最後の部分で、勇者と連呼している。私ロそれを口にしたと読んでいた。メロス自身が作者が、口にした読者がメロスを励ましていたのだと思っていた。勇者の意味について考える内に、そうでは無いのかと思ったり、勇者は、勇者は正義を守り、自信を持って、他人とも、他者から見ても、勇気ある行いをした人とも読める。また、「勇者」は人間の正義感あふれるよい部分と象徴的にあらわしているのかもしれない。自分の中で単に「勇者」と思いつく自己完結すれば話は別だが、そうではない。悪があるはずだ。それは物語の中で、はじめの頃の王であつた。神め分けたメロスであつた。思ふ、そうすると悪は全て、最終的に「善」や「正義」になつていくことになる。世の中全体的に「善」や「正義」でできているわけでもない。そうしたのは大宰の意図があると思ふ。それこそ、風刺的な意味を持つて、世の中の人々に「善」や「正義」を訴えかけているのでは無いかなと思ふ。勇者は当時の人々に大きな影響を与えたかもしれない。友情を深める方法、人が何を正義とするか、勇者の悪味、神々の役割

2、文章を読みなおして考えたくなる問いを作ろう。

メロスが悪い節を見ることか、たゞ、勇者になつて、友情を深めるための方法は何か。

3、2の中でも、特に読みなおして考えたい問いを選ぼう。また選んだ理由を書くこと。

問い作者がこの物語を通して世に訴えたかったものは何か。これこそがこの物語の主題だと思ふから。設定や、ハッピーエンドで終わることから、当時の世の中を想像して、作者がこれを通して世に伝えたかったことを考える。それが現代の私達にも言えることであらば、この物語から教訓を得ることができると思ふから。それにより、作者の思いをより理解できる。新しい視点で読むことか、やる。

4、【ペア】3の問いについて文章を読み直して、考えを書いてあげよう。

正義とは個人的なもので世の中で決まってるわけでもなく、人それぞれのものである。この文章の中では王が悪として描かれているが王様自身にも正義はあったと思ふのでメロスの人を信じる。こそが正義だ。この王様の人を疑うことは悪ではなく正義。つまり正義とはあやふさいで、それが対立へつながる。

この文章を読んで、何を学んだ？ 何に気づかされた？

文章を読んで、新たに気づいた要素をふまえて問いを作ろう。

文章を読んで、「この文章の問題は、自身自身にも重なる問題だな」という問題をふまえて問いを作ろう。

一文の疑問形で作ろう。

次の言葉を用いるのも一つの方法。

「いつ・どこで・誰が誰に・何を・なぜ」  
などのためだ・どうやって

実際に…の長短は…は本音が  
もしも…なら・自分なら…

内容…文章に描かれている世界や内容に関すること

表現…文章の構成や言葉づかいに関すること

作者…文章を書いた作者・筆者に関すること

作品からの発展…文章の世界や内容の発展  
現実世界との関連に関すること

理由を書く時に、次の学習用語を用いて書くこと。

【文学の場合】

設定(時・場・人)・中心人物・心情  
性格・葛藤・変化・対比・事件・伏線  
クライマックス・構成(すじ)・場面  
視点・描写・比喩・象徴・擬音語  
擬態語・倒置・強調・省略・文体  
作者・主題・意図・読者(私たち)  
現実世界・自分

【説明文・評論文の場合】

構成・順序・具体例・事実・根拠・理由  
論理・一般化・反論  
強調・文体・図や表・段落  
対比・共通点・総合的・推理・仮説  
筆者・結論・意見・問題提起・意図  
読者・読者(私たち)・現実世界  
自分

文学と説明文・評論文を混ぜても、どちらの大丈夫。

自分の考えを書いてあげよう。そう考える理由も合わせて書くこと。

1、文章を読み終えて、考えること・思うことを書くこと。

メロスがここまで苦勞して、使命感を持つ、マヤ、どの思いで信実を証明しても、結局は群衆の意見によ、メロスの行動が「正義」とされていくのだと気づかされた。人間はやはり、他人に流されやすくまた物事を深く考えることなく簡単に見えてしま、ているなと思、た。その中でも自身を買、通すことができたメロスは、今の私達が必要な力を持つ、マヤ、なるべき姿だと思、う。「走れメロス」にはそんな筆者のメッセージが込められているのではない。また、「勇者は、ひどく赤面した」は、勇者という人格の人でも、恥ずかしいという人間らしい心情を抱、く、という、ことを表しているの、かなと思、た。

2、絶対的な正義は存在しない。↓多数派の意見とな、マヤ、文章を読みながら考えたくなる問いを作、う。

内容	表現	作者	発展
フィロストラトスは最後の場面なせいな、たのか。	メロスや作者など多数の視点で描かれている意図とは、	作者はこの文章における群衆についてどう思、ているのか。	相対的な正義は現代社会に必要なのだろうか、現代社会での群衆とは？

3、2の中でも、特に読みなおして考えたい問いを選ぼう。また選んだ理由を書、く。

問い現代社会における群衆の役割とは、またその立場の人は、この文章では、結局は「群衆」が主導権であり、群衆がメロスの行動を正義と見なしていた。このように、現代社会においても「群衆」となる人が物事の良し悪しを決定しているのではないかと考えたから。また、その立場の人は、現代社会において必要なのかどうかを考、えることで、文章中の群衆の役割も終、めて深く考、えることが、できるから。

4、【ペア】3の問いについて文章を読み直して、考えを書いてあげよう。

現実世界でもある程度の人数の意見は多数のもの、あ、かな、通、り、か、す、い、の、で、群衆の本、た、大人、数の人達は現実世界でも重要、なる、こ、と、が、あ、る。

## 2020年度 走れメロス まとめ問い一覧

### 【内容】

- ・セリヌンティウスはいつメロスのことを疑ったのか？
- ・もし群衆が「あっぱれ」、歓歡の声をあげていなかったら、メロス・セリヌンティウス・ディオニスはどのような状態になっていたのか？
- ・「走れメロス」において一番影響力の強い登場人物は群衆ではないか？
- ・邪悪主観だったら、どのように表現されたのか？
- ・ディオニスは本当に人を信じられないのか？ それとも演技をしていただけなのか？
- ・フィロストラトスは王からの最後の敵だったのではないか？
- ・P180L7で二人は互いの何に対して「ありがとう」と言ったのか？
- ・正義が相対的なものだとしたら、メロスの貫いた正義も誰かにとっては邪悪だったのだろうか？ また誰にとってか？
- ・この物語での「群衆」の役割は？
- ・最後、「勇者はひどく赤面した」で物語を終わらせたのはなぜか？
- ・最後メロスを殺さなかったのはなぜだろう？
- ・とどこどころメロス目線で物語が書かれている理由は？
- ・メロスが正義でディオニスが悪と決めつけられて書かれているのはなぜか？
- ・メロスとセリヌンティウスは本当に一度も互いを疑ったことがなかったのだろうか？
- ・メロスが走っている途中、ディオニスはどんな気持ちだったのか？

### 【表現】

- ・情景描写は何を、また誰の心情を表すのか？
- ・最後の部分はなぜ書いたのか？

### 【作者】

- ・作者は正義とはどのようなものか？
- ・「走れメロス」の書かれた時の時代背景はどのようなものだろうか？
- ・なぜ作者は、戦争の続くこの時代に正義について考えさせられるこの物語を書いたのか？

- ・メロスとディオニスは似ているのに、なぜ作者は違う人物として描いたのか？
- ・最後の場面で重要になっている群衆を、作者はどういう思いで書いたのか？
- ・作者はメロスのように自らの正義を信じることのできる人物だったのか？
- ・物語は結局何を伝えたかったのか？
- ・作者は人を疑うことは悪徳だと思って、この文を書いたのか？ またそれはなぜか？
- ・筆者が書き表したかったのはどういう絆か？
- ・太宰が紀元前イタリアを舞台にしたのはなぜか？
- ・作者がこの物語を通して世に訴えたかったものは何か？
- ・「群衆」が全てを操っているとすれば、作者はこの物語から何を伝えたかったのか？
- ・なぜ筆者は「走れメロス」を戦時中のような時期に書いたのだろうか？
- ・太宰はメロスのような正義感があったのか？

## 【作品からの発展】

- ・強い友情を築くのに必要なのは何か？
- ・真の勇者とは皆に称えられる者か？ それとも誰かに称えられなくても（認められなくても）人のために行動できる人か？
- ・現実世界での群衆の役割とは？
- ・「群衆」は現実世界において何を象徴するのだろうか？ またそれを通して太宰は何を伝えたかったのか？
- ・現代社会における群衆の役割とは？ またその立場の人は必要であるか？
- ・人を疑うことは悪いことか？
- ・メロスが悪としているあきらめる、人を疑うということは本当に悪なのか？
- ・「正義」「悪」はどのような時に発生するのか？
- ・群衆という大きな意見が王の少数意見をうちこわしたと考えると、この物語は民主主義提起の物語ではないのか？（事実戦時中に物語が書かれている）
- ・「正義の士」として死ぬことは名誉なことなのか？
- ・勇者とは人々の正義を貫ける人か、それとも正義を捨ててでも自分の正義を守れる人か？
- ・お互いを信頼し合える関係を築くためには何が必要か？
- ・本当の正義とは何か？



## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

本実践はまとめの問い作りに挑戦した実践である。単元展開は①通読とはじめの問い作り、②はじめの問いを解決しながら読解する、③まとめの問い作り、④「走れメロス」を読み終えた感想を書く、という展開である。読解を進める中で、初読の段階で生徒の気付いていなかったフィロストラトス、群衆や少女に注目するように促した。たとえば、フィロストラトスと出会う場面では、フィロストラトスの判断の方がより適切な判断ではなかったかと投げかけた。また最終場面では、その場の雰囲気を作っていた中心はメロスやセリヌンティウスではなく、群衆ではないかと投げかけた。さらに、メロス、セリヌンティウス、ディオニスや群衆の熱狂の中で、一人冷静なのが少女ではないのかとも投げかけた。生徒の作ったはじめの問いを解決しながら読解を進めたが、生徒の気づきにくい点について言及し、生徒を揺さぶりながら授業を行った。

本時は、読解に続くまとめの問い作りの授業である。ワークシート（資料「まとめの問い」参照）を利用しつつまとめの問い作りを行った。また、個人とペア両方の活動を取り入れて授業を進めた。生徒はまとめの問いを作ることができた。問いの説明には、授業で学んだこと、考えたことを書くことができた。また、まとめの問いとして、はじめの問いにはなかった、群衆に関する問い（資料「まとめの問い一覧」参照）があった。読解段階での揺さぶりの効果だと考えている。

本時に続く授業では、まとめの問い一覧を見ながら、まとめの感想文を書いた。様々な観点から「走れメロス」を読んで、感想を書くことができていた。

### 2. 研究協議

授業後の協議会では多くの質問、意見をいただいた。そのうち、三点について説明する。

一つめは、文章を自分に引きつけて読むあまり、文章そのものが見えなくなっているのではないかという意見である。私は文章を読むとは、文章の内容を自分に引きつけて読むこと、我がこととして読むことだと考えている。つまり、「走れメロス」を読むことは、「自分なりの走れメロス」を作り上げることだと考えている。同様に、文章を読んで作る問いも、平生自分が抱えている問題と関わりのある問いを作るべきだと考えている。ただし、このような読みを指導者が生徒に促せば、文章を自分に引きつけすぎてしまうあまり、文章そのものが見えなくなるという問題が生じる。国語の読みの授業である以上、文章そのものを軽視するわけにはいかない。引き続き考える必要のある論点である。

二つめは、表現面にもっと注目すべきだという意見である。生徒が作ったはじめの問いもまとめの問いも表現面への注目は弱かった。表現面に目を向けやすい教材は別にして、生徒は表現面よりも内容面に目を向けやすい。そのため、表現面への注目は指導者の側から促す必要がある。注目すべき表現には、①書かれていること全て、②場面展開などの構成、③工夫された言葉遣いや表現の3種類があると考えている。②と③に学習者の意識を向ける必要がある。

三つめは、解決できない問いの扱いについてである。生徒が作る問いには、教材文を読んで解決ができないものがある。このような問いをどのように扱うのかという質問である。解決できなくとも、そのような問いがあることを知っていること、抱えていることが大切だと考えている。そして、その時その時で、その問いに対して考えてほしいと思う。

